

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
A方式 11月2日 問題▶p.36~	第1問	細胞	体細胞分裂
	第2問	生殖と発生	無性生殖と有性生殖、配偶子の形成
	第3問	遺伝	性決定の様式、二遺伝子雑種、伴性遺伝
	第4問	環境と動物の反応、細胞	血液凝固、細胞と浸透圧
	第5問	環境と植物の反応	光合成と環境要因
A方式 11月3日 問題▶p.39~	第1問	細胞	体細胞分裂
	第2問	生殖と発生	被子植物の配偶子形成、重複受精
	第3問	遺伝	胚乳の遺伝(キセニア)
	第4問	環境と動物の反応	腎臓のはたらき、尿生成に関する計算
	第5問	環境と植物の反応	長日植物と短日植物、花芽形成

傾向 各分野で基礎レベルを中心に出题されているが、発展内容もみられる。

① 出題形式

大問5問の構成で、小問数は25問または30問である。解答方式は、すべてマークシート方式である。出題形式は語句選択・数値選択・組合せ選択・文章選択・正誤判定などとなっている。選択肢は4~9択である。

② 出題内容

細胞、生殖と発生、遺伝、環境と動物の反応、環境と植物の反応の各分野から偏りなく出題されている。

知識問題が多いが、実験考察問題やグラフ・表で示されたデータを扱う問題などもみられる。

③ 難易度

教科書の生物の用語や内容を理解していれば十分に解ける基礎レベルを中心に出题されている。しかし、11月3日に実施された試験の第3問の胚乳の遺伝(キセニア)は発展内容であり、重複受精に気がつかないと、正答を選ぶことは難しいだろう。このため、基礎レベルの問題をミスせずに、確実に得点する必要がある。

また、遺伝の問題や実験考察問題などでは、熟考するための時間が必要となる。この時間を確保するためにも、基礎レベルの問題を素早く解くことが大切だ。

対策 教科書の内容をしっかりと理解することが大切!

① 教科書の内容を理解しよう

基礎レベルの問題を確実に得点するために、まずは教科書の内容を大まかにとらえ、教科書に出てくる太字の用語をおさえよう。用語は文章中だけでなく図中でも示されているので、図と文章を合わせて確認しておくとおさえやすい。

一通り学習したら、用語からその意味を説明してみるとよい。説明できなかった用語はまだ知識が定着していない用語なので、確実に説明できるようにしておこう。

用語の意味が理解できたら、教科書の内容がさらに理解できるはずだ。各分野間のつながりを意識しながら教科書の文章を読んでいき、理解を深めておこう。

また、実験考察問題も多く出題されているので、教科書で扱われている実験の内容を理解し、結果や考察についてそれぞれ整理しておこう。

② 生物の文章をしっかりと読めるようになるよう

入試には、教科書では扱われていない実験などを長文で説明し、考察させる問題が出題される場合がある。このような問題にも、動揺せず、文章の内容を読みとることが必要だ。

内容を読みとるには読解力が必要となる。問題集などで、さまざまな文章を根気よく読めるように練習しておこう。

③ 遺伝の問題を演習しよう

メンデルの法則などの遺伝の問題は、用語を理解しているだけでは解けない。遺伝子を、 $A \cdot a$ 、 $B \cdot b$ などの記号を用いて図式化し、配偶子の組み合わせを表で整理する演習が必要となる。

遺伝子が、 $C \cdot c$ や $X \cdot x$ のような大文字と小文字が同じ形のアルファベットで表されているときには注意が必要だ。解いているときに慌てて大文字と小文字の読み間違いをしまうと、表現型が違ってしまうことがある。このため、遺伝子記号は、区別しやすいように書くことが大切だ。

メンデルの法則のほか、不完全優性や複対立遺伝子、伴性遺伝など、さまざまな様式の遺伝についても理解しておこう。

④ 実験の結果や考察を読みとる力をつけよう

実験考察問題では、グラフや表などのデータが与えられる。この問題を解くには、グラフや表などのデータが何を意味しているのかを考察する必要がある。グラフでは、縦軸や横軸、傾き、単位を確認し、読み間違いをしないように練習しておこう。

さまざまな実験考察問題に対応するために、問題集などで演習量を増やし、多くの設問に触れておこう。